

| ディプロマ・ポリシー   |     |   | カリキュラム・ポリシー  | アドミッション・ポリシー  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|-----|---|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>本専攻博士後期課程では、大学の定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、7単位（修士課程における修得単位数含まず）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者には、博士（食物栄養学）の学位を授与します。</p> |     |   | <p>本専攻博士後期課程ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような「食物栄養学分野において自らの力で研究課題を発見し解決する能力を身に付けた人材の養成をもって社会に貢献する」の方針に基づき、カリキュラム（教育課程）を編成します。</p> <p>本専攻では、修士課程で得られた豊かな学識、高度な専門的研究能力を基礎として、食と健康に関して、指導教授による研究課題の決定、研究計画の作成への指導助言を行い、博士論文の作成を指導します。また、標準修業年限を超えて履修することができる長期履修学生制度や昼夜開講形態を採るなど、修学上の多様なニーズにも配慮します。</p> | <p>本専攻博士後期課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p> <p>修士課程で培った専門性をさらに高め、食と健康に関する研究者として、自立して研究活動を行い、または高度に専門的な業務に従事するに必要な学識と能力を有したいと希望する者で、優れた資質を持ち、学問に対する意欲にあふれた者を受け入れます。</p> |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 1. 知識・理解   | 1-1 | 研究者として必要となる高度な専門的知識を身に付けている。  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 1-2 | 研究者として必要な高度な専門的知識を踏まえ、収集したデータを正しく理解する力を身に付けている。                         |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 2. 技能・表現   | 2-1 | 研究者として必要な高度な研究遂行能力を身に付けている。   |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 2-2 | 研究成果を公表する研究者として必要な高度な表現力を身に付けている。                                       |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 3. 思考・判断   | 3-1 | 研究者として必要な高度かつ専門的な情報を自ら収集し、得られた情報や成果を思考する能力を身に付けている。                     |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 3-2 | 自ら課題を発見し、解決できる研究能力を身に付けている。   |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 4. 態度・志向性  | 4-1 | 他研究機関（者）と協調し、積極的に研究課題に取り組める社会性を身に付けている。                                 |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 4-2 | 研究活動をとおして地域社会に貢献する態度を身に付けている。   |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 5. 統合的能力   | 5-1 | 研究能力を持つ管理栄養士、食品技術者として社会に貢献できる能力を身につけ、指導的役割を果たす自立した教育研究者を志向する態度を身に付けている。 |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 5-2 | 社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。                                     |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |